

1. 略歴

- 1988年3月 東京大学文学部中国哲学専修課程卒業
- 1990年3月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程（中国哲学専攻）修了
- 1991年8月 東京大学大学院人文科学研究科第一種博士課程（中国哲学専攻）中退
- 1991年9月 京都大学人文科学研究所助手
- 1997年4月 千葉大学文学部助教授
- 2003年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
- 2007年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授
- 2015年4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

中国思想、道教

b 研究課題

- (1) 道教思想、道教史の解明
- (2) 道教と中国仏教の交渉史
- (3) 儒・仏・道の三教交渉史を中心とする中国思想史

c 概要と自己評価

研究の中心は道教であるが、道教と中国仏教との関係、および儒・仏・道の三教の影響関係からみた中国思想史についても考察を進めている。三教についてはこれまで道・仏の関係を論じることが多く、とくに道教の内丹説と仏教とのかかわり方について多角的な考察を行ってきたが、三教みつどもえの関係についてはあまり論ずることができなかったため、本期間では新たに儒教知識人の考える仏教・道教関係などについても考察を試みた。また道教に関しては根本資料の「道蔵」に対する科研プロジェクトの調査と研究を一層推し進めた。

d 主要業績

(1) 論文

横手裕、「宋元道教的内丹養生法」、『道教圖像・考古與儀式』、香港中文大学出版社、2016、313-350頁

Yokote Yutaka, "The Development of Taoist Studies in Japan: With a Focus on the Eleventh to Seventeenth Centuries", in *Acta Asiatica 112*, Tokyo: The Tōhō Gakkai, 2017, pp.67-89

横手裕、「茶と道教修行——宋金内丹家の考える茶の功罪——」、『学芸国語国文学』50、東京学芸大学国語国文学会、2018.3、124-134頁

(2) 学会発表

国際、横手裕、「日本に現存する嘉興蔵とその研究について」、近世東亜佛敎的文献和研究：工作坊暨青年学者研究營、台湾・仏光大学、2016.7.15

国際、横手裕、「山東地区の道教について」、全球漢籍合璧与漢学合作研究研討会、中国・山東大学、2016.11.26

国際、横手裕、「全真教の内丹説」、シンポジウム「道教への多角的アプローチ」、韓国・ソウル大学、2017.8.8

国際、横手裕、「日本宮内庁書陵部所蔵道蔵的由来和現状」、《儒蔵》論壇系列學術講座第197講、中国・四川大学、2018.1.16

(3) 啓蒙

横手裕、「「北頂」娘娘廟今昔——オリンピック公園の片隅の話——」、『北京を知るための52章』、明石書店、2017.12、pp.159-163

(4) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究（A）、横手裕、研究代表者、「宮内庁書陵部所蔵道蔵を中心とする明版道蔵の調査と研究」、2016～

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

早稲田大学文学学術院、非常勤講師、2017.4～2018.3

名古屋大学文学部、非常勤講師、2017.4～2017.9

千葉大学文学部、非常勤講師、2017.10～2018.3

国際日本文化研究センター、研究員、2016.4～

(2) 学会

日本道教学会、理事、論文審査員、2016～

中国社会文化学会、理事、2016～

日本中国学会、論文審査委員、2016～